

府中市立地適正化計画（素案）に対する パブリックコメントの要旨について

1. 実施概要

意見募集期間	平成29年1月10日（火）から平成29年2月6日（月）まで
意見提出方法	<ul style="list-style-type: none">・ 持参（府中市役所3階 府中市建設産業部まちづくり課）・ 郵便・ ファックス・ 電子メール
閲覧場所	<ul style="list-style-type: none">・ 府中市役所3階 府中市建設産業部まちづくり課・ 府中市上下支所・ HP上での閲覧

2. 実施結果

提出者数	3通
提出方法	<ul style="list-style-type: none">・ 閲覧場所での提出：0・ 郵便：2・ ファックス：0・ 電子メール：1

3. 提出された意見と意見に対する本市の考え方

意見の分類

(1) 感想および意見の趣旨が素案に含まれていると考えられるもの
(2) 今後の具体的事業に向けて参考としていくもの

(1) 感想およびご意見の趣旨が案案に含まれていると考えられるもの

番号	意見要旨		市の考え方
1	目標年次について	都市計画マスタープランとの関係について	<ul style="list-style-type: none"> 本計画の特徴である居住の誘導は短期間で実現されるものではなく、長期的な時間軸の中で進めていくべきと考えます。そのため、本計画の目標年次を約20年後の平成47年とし、都市計画マスタープランにおいて平成47年を展望して設定した将来都市構造の実現を目指します。 見直しのタイミングについては、平成37年を目処とした都市計画マスタープランの改訂と合わせて本計画を見直すとともに、加えて、その前後約10年間の間にそれぞれ1回程度の見直しを想定しております。 いただいたご意見を踏まえ、本市における都市計画マスタープランと立地適正化計画の関係、見直しの時期についての説明を計画に追加します。
2	計画の見直しについて	計画の明確化が妥当と考えます。約20年に近い長期計画が意図されているが、概ね5年毎の計画見直しを予定するとしても、漠然とした期間設定では関係する計画の実施具合もあリ的確な見直しが出来ないことも予想されます。	
3	都市づくりの目標について	コンパクトなまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> 府中市は山や川に囲まれた元々コンパクトなまちであり、国土交通省が示す一般的なコンパクトプラスネットワークの考え方がそのままあてはまるわけではありません。しかし、府中市でも、今後、人口減少、高齢化がより進展すると予測されています。特に、高齢化の進展により、今後自動車の運転できない高齢者が増えると考えられ、そのような自動車の運転できない人でも生活できるまちづくりとして、歩いて暮らせる生活中心街の形成を図っていく必要があります。 人口流出対策については、特定の分野での取組みでは限界があるため、関係部署と連携し、コミュニティづくり等多角的な視点での取組みを今後検討します。
4	誘導方針について	新たな施策の位置づけについて	<ul style="list-style-type: none"> 府中市ではこれまで都市計画マスタープランで生活中心街と位置付けた府中駅周辺を中心にまちづくりを行ってきており、すでに多くの公共施設が集積していることが強みであります。財政が限られる中、まずは、これまでの取組みの蓄積、既存ストックを活用した継続的なまちづくりが基本となります。 一方で、今回、新たな施策として、例えばサービス付き高齢者住宅の立地誘導を位置付けることで、公共施設等の集積を生かした、高齢者が元気に暮らせる環境形成の強化を目指しています。 本計画の目標を達成するため、計画策定後においても他部署との連携を継続し、社会情勢等を踏まえつつ、見直しのタイミングでの新たな施策等の位置づけ、関連計画での位置づけを行っていきます。
5		継続的な取組みと財政について	<ul style="list-style-type: none"> 府中市ではこれまで都市計画マスタープランで生活中心街と位置付けた府中駅周辺を中心にまちづくりを行ってきており、すでに多くの公共施設が集積していることが強みであります。財政が限られる中、それらの蓄積、既存ストックを活用した継続的なまちづくりが、まずは基本となります。 現在、都市基盤の整備・維持においては、財政状況を考慮しながら整備効果等の高い場所から優先順位を付けて整備を行っております。公共施設の適正配置を目指し、関連計画である公共施設等総合管理計画と連携を図りながら、身の丈にあった公共施設等の整備を行っていきます。
6	誘導施設について	シルバー人材センターについて	<ul style="list-style-type: none"> シルバー人材センターは、利用者の多くが自動車の運転ができると想定されること、シルバー人材センターの施設で高齢者が働くわけではないことから、府中駅周辺に誘導する重要性はそれほど高くないと考えます。
7	誘導区域について	届出制度について	<ul style="list-style-type: none"> 本計画は区域外の生活を制限するのではなく、区域内の生活中心街などの生活支援機能の維持を図ることで、区域外も含め府中市全体で現在の居住地に住み続けられることを目指す計画です。 区域外での届出制度は土地利用を抑制するものではなく、区域外の土地利用の動向を把握し、今後の計画の見直しや施策検討等の参考とするのが主旨です。

(2) 今後の具体的事業に向けて参考としていくもの

番号	意見要旨		市の考え方
8	誘導方針について	府中駅周辺について	<ul style="list-style-type: none"> 府中駅周辺においては、府中市全体の生活を支えるため、公共施設や商業施設などの都市機能の誘導・維持と歩行空間の確保等により、生活利便性及び回遊性を向上させ、ただだれもが歩いて暮らせる生活中心街の形成を目指しています。 府中駅においては、南北市街地の分断解消を図るため、南北自由通路等の基盤整備を行い、昨年竣工した道の駅びんご府中等の商業施設や公共施設へのアクセス性を向上させ、同時に歴史・文化を生かした観光分野との連携によって、府中駅周辺の活性化を図っていききたいと考えています。いただいたご意見は、今後の具体化方策検討の参考とさせていただきます。
9		教育施設について	<ul style="list-style-type: none"> 教育施設の充実、転出抑制や地場産業の活性化に一定の効果があると考えており、現在府中市においては、官民連携のもと専門的な技術を学べる大学の誘致を検討しているところです。 今後、具体化した際には、見直しのタイミングでの施策等の位置づけ、関連計画での位置づけを行っていきます。
10	誘導施設について	企業の誘致・育成について	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な都市経営を志向するに当たって、常に新しい流れを市街に持ち込むことが必須でしょう。 このため、府中市で新しいベンチャー企業の育成等の支援を商工会議所等と如何に協働しておられるか解りませんが、どの市でも前向きに取り組んでいるのが現状です。出来れば、府中駅周辺にベンチャー企業の協働事務所を新設したらどうでしょうか。特に時代背景からして、ICT関係のベンチャー育成・支援は要検討事項と思います。 住民が安心して暮らせるまちづくりを推進していくうえで、雇用の創出、産業の振興は重要と考えます。本計画に記載した南北道路の整備を契機とした沿道への企業誘致を含めた産業振興を関係部署と包括的に協議し、区域の設定を行う際の参考とさせていただきます。